

イギリス初等・中等教育の動向

——連立政権成立から2012年2月まで——

宮島 健次
(西武文理大学)

はじめに

本稿では、イギリス教育省 (Department for Education) が発表したプレス・リリースおよびニュースを、特に初等・中等教育に絞って、キーワードに沿って紹介していく¹。会員諸兄・諸姉のイギリス教育研究の一助になれば幸いである。

イギリス教育省のサイトでは読者の利便性を高めるために、それぞれのプレス・リリースやニュースにタグ付けがなされている。そのタグを援用し、プレス・リリースの時系列順に、いつ何が発表となったのかを紹介していこう。下の表はそのタグ名と関連付けられたプレス・リリース、ニュースの数を降べきの順にしたものである。

表1 政権発足後、2012年2月末までに発表されたプレスリリース・ニュースのランキング²

順位	タグ名	数	順位	タグ名	数
1	アカデミー Academy	35	10	キー・ステージ・テスト Key Stage Tests	8
2	児童保護 Child Protection	19	10	早期教育 Early Years Education	8
3	キー・ステージ2 Key stage 2	14	13	学校建築 School Buildings	7
4	オフステッド OFSTED	11	13	チャイルドケア Childcare	7
4	特別支援教育 Special Educational Needs	11	13	保護児童 Children in Care	7
6	GCSE 試験 GCSEs	10	13	キャピタル・ファンド Capital Funding	7
7	養子縁組 adoption	9	13	ナショナル・カリキュラム National Curriculum	7
7	ソーシャル・ワーカー Social Workers	9	18	資格 Qualifications	6
7	フリー・スクール Free School	9	18	スクール・パフォーマンス School Performance	6
10	教育財政 Education Funding	8	18	学校改善 School Improvement	6

表1でもわかるように、新政権発足後、最もホットな話題はアカデミー、ついで児童保護に関する事項であった。

周知の通り、2010年5月の総選挙で、ゴードン・スミス率いる労働党は敗北し、13年ぶりに下野した。他方、デビッド・キャメロン率いる保守党も過半数を得られず、自由民主党との連立政権が成立した。首相はデビッド・キャメロン (David W. D. Cameron) 保守党党首、教育大臣にはマイケル・ゴヴ (Michael Gove) が就任した。

2010年12月、連立政権は白書『教えることの重要性』(*The Importance of Teaching*) を発表し、今後の教育改革の方針を明らかにした。OECDのPISAの結果に見られる他国の優れた教育システムと比べて、イギリスの教育が劣っている点は「教えること (Teaching)」にあり、教育 (教授) の「質」向上こそが鍵であるとし、教師の質・地位の向上や教師・学校の権威や自律性の強化、そのサポート体制の強化、などを掲げた。その具体的政策としてまず標榜されたのが既存学校のアカデミーへの転化促進とフリー・スクールの設立促進であった。

1 アカデミー (Academies) に関する動向

アカデミーとは公費で維持されるものの外部スポンサーなどの資金を獲得し、地方当局 (Local Authority) のコントロールからかなりの程度独立した運営を認められた学校である。カリキュラムに独自性を持たせたり、教師の給料なども自分たちで決定したり、授業時間数を決定したりすることができるなど従来よりも融通がきく学校形態である。これは労働党が2000年に失敗校 (failing schools) の代わりに設立しようとしたシティ・アカデミーを起源としている。労働党は当初、24,000校ある中等学校のうち400校程度をアカデミーにするよう計画していた。しかし、実際には200校程度しかアカデミーにすることができなかった。そのアカデミー化を再活用しよう、というのが連立政権の目論見であった。

■ 2010年

- 5月26日 ● 教育大臣マイケル・ゴヴが、すべての小学校、中等学校、特別学校にアカデミーになるよう促す。
 - 教育大臣ゴヴ、アカデミーに容易に転換できるよう、法整備を整えるよう指示。
- 6月 2日 ● 教育大臣マイケル・ゴヴ、1,000校以上もの学校がアカデミーへの転化申請を提出したと発表。
- 6月18日 ● 教育大臣マイケル・ゴヴは学校を新設する手続きおよび申請受付を発表、さらに居住施設や商業施設の利用目的変更についての申請等も簡素化することを発表。
- 7月 1日 ● 学校担当副大臣ニック・ギブ (Nick Gibb) が将来の学校教育改革についてのビジョンを演説。それによると政府の教育方針は (1) 自由、(2) 責任、(3) 公正といった3つの原則のもとに展開されているという。社会的背景や両親の収入などに関係なく、どの子どもにも最上の教育が施されるべきであり、コア知識と内容に焦点をおいたカリキュラムを策定し、教師が最大の教育効果をもたらせるよう学校における官僚制を減らし、アカデミーとフリー・スクール・プログラムを

進展することによって保護者に選択肢を提供し続けることこそが今後の教育改革の方向性である。

- 9月 1日 ● アカデミー法 (The Academy Act) 成立後 1 ヶ月で 142 校がアカデミーに改組。現時点でのアカデミー総数は 216 校となる。教育大臣ゴーフの発言「政治家や役人ではなく、教師と校長が学校をコントロールすべきであって、よりよい学校経営を目指す力を与えられるべきである、とこの政府は信じている。だからこそ、我々はアカデミーによる自由を広げている。これが校長に、問題児への対応や教師の擁護を、また教師が報われるように、さらには子どもたちに彼らが必要とする教える専門家を与える、といった力を与えるだろう。」
- 9月10日 ● NAO (National Audit Office : 英国会計監査院) のアカデミーに関する報告書が公表。これに対し、教育大臣ゴーフは、学校の自律性 (autonomy) がより高い教育効果を生み出すとともに持続可能な改革をもたらすことを再確認した、とコメント。
- 11月 4日 ● 教育大臣マイケル・ゴーフは地方当局に対し、教育効果があらわれていない学校に対してアカデミーに転化することを促すことが地方当局の役割であるという趣旨の手紙を送った。
- 11月 6日 ● 学校担当副大臣ヒル卿 (Lord Hill) は学校理事に対しその重責を十分に果たすためにもアカデミーへの転化をすすめるよう奨励した。
- 11月17日 ● OFSTED によって優秀校 (Outstanding School) というお墨付きをもらった学校は自動的にアカデミーになる資格を得ることができると発表された。優秀校がアカデミーになることによって、地域の学校間関係が強まり、さらにチーム化することでお互いに教育効果を高め合っていくと期待されるからである。
- 11月23日 ● 本日発表された OFSTED の年間報告書によれば、全国で13%の学校が優秀校と認められた。一方、不適格校は、昨年 360 校であったのが、今年は 576 校と増加傾向にある。しかし、アカデミーだけに限ってみれば実に 26%もの学校が優秀校と認定されている。また不適格校の数も昨年から比べれば、全国の傾向とは逆に減っている。このことについて、教育大臣ゴーフは次のようにコメントしている。「今回の結果は、教師の質に起因している。世界で最も教育がうまくいっている国の特徴は、教師の質を担保している点にある。」
- 11月24日 ● 教育白書「教えることの重要性」(The Importance of Teaching) 公表。

■ 2011年

- 1月 6日 ● 2010年5月時点と比べるとアカデミーの数が倍増、400校となる。これは全国の学校の10分の1にあたる。
- 1月14日 ● 新しく学校審議官 (School Commissioner) として、エリザベス・シドウェル博士 (Dr. Elizabeth Sidwell) が任命された。
- 4月 7日 ● 今月、新たに 162 校がアカデミーとなった。
- 5月10日 ● 本日、アカデミーへの申請状況が発表となった。1,000 校以上もの学校がアカデミーに申請し、先月だけで 240 校が申請した。
- 5月13日 ● 教育大臣マイケル・ゴーフはウェリントン・アカデミーで演説し、独立学校のアカデミーに対する支援や連携などの貢献を歓迎するとの声明を出した。
- 6月 3日 ● 本日発表された統計によれば 1,200 校もの学校がアカデミーに申請した。
- 6月16日 ● 教育省はアカデミーへの財政的支援についてメディアの質問に回答した。それによれば、現在の財政的支援の枠組みは前政権によって作られたものであり、その

支出等の正確な情報に基づいて地方当局の責任において分配がなされている。しかしながらいくつかの地方当局において、アカデミー間に多少の分配の差が生じている。このことについて教育省を非難することは誤りである、という。

- 6月16日 ● 教育大臣マイケル・ゴヴ、ナショナル・カレッジ・フォー・スクール・リーダーシップで学校長たちに演説を行う。
- 6月20日 ● 2012年9月の開校を目指したフリー・スクールの申請数が281になったと発表があった。
- 7月5日 ● 本日、全中等学校の5分の1以上となる801校のアカデミーが開校した。
- 9月5日 ● この9月に45校もの学校がアカデミーとして再スタートを切った。また年内にはさらに49校がアカデミーへの転化を予定している。2010年9月以来、1,097校がアカデミーとなった。そのうち、116校がスポンサーのついたアカデミーであり、981校がアカデミーへと転化した学校である。2011年7月に制定されたアカデミー法以前は、アカデミーの数は203校だったので、現在合計1,300校、実に6倍以上も増加したことになる。この点に関し、教育大臣ゴヴは以下のコメントを発表した。「政治家でも官僚でもなく教師が学校を運営すべきである。彼らは教室でのイノベーションを引き起こすのに自由であるべきである。だから何千もの学校がアカデミーに転化したのだ。どの子どももよい学校に通うことが可能であるべきだ。しかし、私たちは先進国の中で最も階層化されかつ分断された教育システムを継承してきた。ありがたいことに、今年、記録的な数の下位校 (weak schools) がアカデミーへと転化した。そこで、我々はますます多くの子どもたちに、上位校が歴史的に蓄積してきた機会を与えることができる。」
- 10月7日 ● ロンドン郊外の特別区ハックニー (Hackney) で最も成功した学校と OFSTED にお墨付きをもらったモスボーン・コミュニティ・アカデミー (Mossbourne Community Academy) のアカデミーへの転化計画が承認された。
- 11月9日 ● 政府は維持学校 (mainted school) のアカデミー転化を促進するために、校地転用に関する地方当局の規則について広く意見聴取をすることにした。
- 12月8日 ● 教育大臣マイケル・ゴヴは本日、2011年度および2012年度のアカデミーの財務に関する意見聴取を公表した。

■ 2012年

- 1月18日 ● 教育大臣マイケル・ゴヴはバークレイ社 (Barclays) の学校支援、特にアカデミー、フリー・スクール、UTC (University Technical College) に対する支援を歓迎した。
- 2月28日 ● 2月25日 (土)、『オブザーバー』『ガーディアン』両紙が、アカデミーのパフォーマンスに関して、政府が言うほど成功しているわけではないという主旨の記事を掲載³、これに対して、教育省は以下の反論を発表した。(1)今年度のアカデミーにおける GCSE の結果は、すべての維持学校の中でほぼ2倍の改善を示している。(2)他の学校と比べて、アカデミーの出席率は急激に上昇し、かつ NEET の数は他の学校より急激に下降している (NAO 報告書より)。(3) LSE (London Schools of Economics) の研究では、アカデミーにおいて、生徒の受け入れと GCSE 同等資格の使用をコントロールすることで比較可能な他の学校よりも急激にそのパフォーマンスが改善することが判明している。さらにアカデミー効果は他の地方学校の標準レベルを引き上げることに貢献することが研究を

通じて明らかになっている。(4) アカデミーにおける FSM (Free School Meal: 給食費免除) を受ける学生の達成率は、2009 年から 2010 年の間に 8 ポイントも改善された。これは他の比較可能な学校が 3.1 ポイントであったのに対して、2 倍以上の数値である。さらに全国平均の 4.3 ポイントとくらべてもかなり高い比率である。(5) スポンサーのついたアカデミーにおいて、歴史のあるアカデミーのほうが (GCSE の) 結果は、そうでないアカデミーよりも一般的に高い。2011 年は、開校初年次のスポンサーつきのアカデミーにおいて、英語・数学を含んで A* ~ C を 5 つ以上取得した生徒の割合は 42.7%であった。開校から 5 年以上経過した学校では 52.0%であった。

以上が、アカデミーの動きである。こうして年間を通してみると、政府によるアカデミーの喧伝、なんとかしてアカデミーを拡散しようという動きが非常に顕著であることに気づくだろう。しかしながらこの喧伝に対して、ジャーナリズムが一矢報いる。それが 2012 年 2 月 25 日に発表されたガーディアン紙の記事である。どちらも単なる数字のトリックのように思えるが、実際のところはどのようなのだろうか。

参考までに、その記事を簡単に訳出しておこう。

アカデミー学校は GCSE 試験がそれほどよいわけではない—研究結果
似たような生徒が通う地方当局の学校の方がいい結果を出している、
政府統計の分析から

ダニエル・ポフィ

(ガーディアン UK、2012 年 2 月 25 日土曜日、20 時 58 分)

政府統計の新しい分析によると、アカデミーは他の公的學校に及ばないことがわかった。このことは教育大臣らに遂行されている改革プログラムに対する疑念を引き起こすであろう。

政府当局は學校を地方当局から切り離すために、アカデミーに転化することを積極的に促している。一方で失敗校は問答無用でアカデミーに改組、転化している。このプログラムを積極的に進めるマイケル・ゴーズは「失敗に満足していること」を非難している。しかしながら最新の教育省の統計を分析すると、昨年の GCSE 試験で 5 科目で A* ~ C を取得した生徒の 60% はノン・アカデミーであり、スポンサーのついたアカデミー 249 校では同様の成績をとったものはわずか 47% に過ぎなかったのである。

生徒の成績推移をしらべてもアカデミーのほうがノン・アカデミーよりも低く、2011 年の GCSE の英語においてアカデミー出身者の 65% が満足できる成績を取得したのに対し、残りの公的部門の學校——コミュニティ、ファウンデーション、有志立援助學校——出身者は 74% の生徒が達成した。

アカデミー・プログラムの支持者は、比較的低い進捗は不利益な地域におけるでの悪い生徒たちが大勢を占めるアカデミーにおいて期待されるものであるべきだ、と議論するだろう。しかしながら、Local School Networkのアンチ・アカデミー・キャンペーン・グループの教育評論家ヘンリー・スチュワート（Henry Stewart）による統計分析によれば、このギャップはアカデミーと学校を比較しても特に変わらない、という。また彼の分析では、40%の生徒が給食費免除を受けているアカデミーと学校両者の間にも明確なギャップが存在するという。

そのようなアカデミー40校においては2011年のGCSE試験、英語・数学を含む5科目でA*～Cを取得した生徒は38%であった。一方、同じような生徒が所属する他の公的部門の学校では44%の生徒が達成していた。

スチュワートは3年以上地方当局の支配から独立したアカデミーでさえ、その結果は当局の支配を受けている学校ほどよくはない、と言う。

アカデミーの結果と2008年にA*～Cの成績を取得した生徒が35%に満たない学校の今回の結果を比べても独立していない学校のほうが成績が良かった。

アカデミーが英語・数学を含むGCSEの成績達成率を23.6%から42.2%に引き上げる一方で、同様のことがアカデミーに変わらず、予算も少ない学校でも起こっているのである。彼らの結果は23.4%から43.4%であった。

この結果は、ゴーズが主張するアカデミーという学校種による利益に矛盾することを示す。教育大臣は学校種を変えることで、官僚主義を排除し、校長を自由にし、学校のレベルを向上することになると言う。最近の教育選抜委員会（Education Select Committee）のヒアリングで、ゴーズは、自分たちの政権のうちにほとんどの中等教育がアカデミーになることを期待するといった。特に政府は、イースト・ロンドンのハックニー特別区のモスポーン・アカデミーとウェスト・ロンドンのハマースミス特別区のバーリントン・デーンズ・アカデミー（Burlington Danes Academy）をその目を見張る進捗から最優秀校と定めた。前者はこの度新しく学校主任視察官となったマイケル・ウィルショウ卿（Sir Michael Wilshaw）が前任の校長を勤めた学校である。

しかしながら、スチュワートは、政府は変化を正当化する証拠を持たない、という。「政府は、アカデミーは記録的な進歩を遂げているので、どの学校もアカデミーに転化する事ができる、と言っている。その裏付けとしてモスポーンやバーリントン・デーンズを引き合いに出すのだ。しかし、これは証拠ではなく逸話や事例によって政策立案されている。モスポーンやバーリントン・デーンズは非常に傑出した学校に違いないが、それは、教育省が発表したデータによれば、アカデミーだからというわけではないことは明らかだ。もし政府の教育政策が本当に証拠に基づいて立案されるならば、その結果が向上されることを期待しながら、アカデミーから地方当局がコントロールするノン・アカデミーに転化した学校を見るべきである。」

教育省のスポークスマンは統計の正確性については否定しなかった。しかし、アカデミーは時間をかけながら明らかに改善している、その証拠もある、と言った。2011年

の GCSE の最終結果では、166 のアカデミーで 2010 年と 2011 年の英語・数学を含む 5 科目で A* ~ C を取得した生徒の成績達成率は 40.6% から 46.3% であった。

2 児童保護 (Child Protection) に関する動向

■ 2010年

- 6月10日 ● 子どものための社会活動と児童保護の実践現場についての独立したレビューをするために、アイリーン・マンロー教授 (Professor Eileen Munro CBE) が教育大臣マイケル・ゴーフに招かれた。
- 6月16日 ● 教育省がコンタクト・ポイント (Contact Point) の次段階について地方当局とそのパートナーに告知をした。(その内容は、コンタクト・ポイントを廃止し、あらたな枠組みを作る、というものである。)
 - * コンタクト・ポイントとは、18 歳以下のすべての子どもの情報をまとめたデータベースのことである。それぞれのサービスが子どもの情報を共有することで児童虐待やネグレクトなどに早急に対応できるようにするために、2004 年の児童法に基づき、制定された。
- 7月 1日 ● アイリーン・マンロー教授は子どものための社会活動のレビューに関して、よい実践の証拠や事例の聞き取り調査をすることを告知した。
- 7月22日 ● 政府はチルドレンズ・トラストにはびこる官僚制を排除するため、チルドレンズ・トラスト (Children's Trust) の改革に着手した。
 - 政府はコンタクト・ポイントの廃止について確認・調整を始めた。
- 7月27日 ● 教育大臣マイケル・ゴーフは、キラ・イシャク (Khyra Ishaq) の悲劇的な死についての深刻なケースの調査 (Serious Case Review : SCR) の出版についてコメントした。キラ・イシャクへの虐待は死の何ヶ月も前から起きており、事前に防げたはずだとして、バーミンガムの当局を非難する一方、この SCR の出版から学び取ること、将来同様の事件を未然に防ぐことができる、と評価した。
 - * キラ・イシャク事件は 2008 年に発生した、両親が 7 歳の実の娘を餓死させるというショッキングな幼児虐待。
- 9月30日 ● 子ども担当副大臣ティム・ロートン (Tim Loughton) は、2010 年 3 月現在、地方当局に保護されている子どもの統計と 2009 年から 2010 年の児童保護計画の評価を発表した。
- 10月 1日 ● アイリーン・マンロー教授は英国の児童保護システムのレビュー一次報告書において、プロセスと手順および以前の改革の意図しない結果が、ソーシャル・ワーカーが弱い立場の子どもたちや家族と過ごす時間の妨げになっていることを指摘した。
- 10月26日 ● 政府は本日、児童保護システムの可視化を改善・促進する意味合いも込めてピーター・コネリー (Peter Connelly) の悲劇的な死に対する 2 冊の SCR の出版への関与を完了した。このことについて子ども担当副大臣ティム・ロートンは以下のコメントをした。(1) (この SCR は) 学ぶべき本当の課題であり、(2) 公的部門の信頼回復と透明性を増し、(3) すべてのものの役割を明らかにし、責任を共有しあうことの手助けになる。
- 12月26日 ● 子ども担当副大臣サラ・ティザー (Sarah Teather) は母親協会 (Mother's Union)

の会長レグ・ベイリー (Reg Bailey) に子どもたちの性の商品化に関する独自レビューの作成を依頼した。2011年5月の公表を目指す。

■ 2011年

- 2月 1日 ● マンロー・レビューの中間報告が公表され、アイリーン・マンロー教授は改革が必要な児童保護システムの範囲を特定した。
- 2月11日 ● 子ども担当副大臣ティム・ロートンは、本日発表された現行の児童及び成人弱者を保護する枠組み (Vetting and Barring Scheme : VBS) のレビューによせて、「新しいシステムは官僚制がより少なくなり、萎縮させることも少なくなるだろう」とコメントした。
* VBS とは子どもや成人弱者とともに働くのに不適切な人々を彼らから遠ざける枠組みであり、犯罪履歴局 (the Criminal Records Bureau) によって運営されている。
- 2月15日 ● 英国児童愛護会 (The National Society for the Prevention of Cruelty to Children : NSPCC) による児童虐待統計の発表をうけ、子ども担当副大臣ティム・ロートンは 1,120 万ポンドをかけて基金の創設とヘルプ・ラインの創設を提示した。
- 5月10日 ● マンロー教授の児童保護システムのレビュー「児童保護に関するマンロー・レビュー——最終報告書：子ども中心のシステムに」が公表された。
- 6月 6日 ● レグ・ベイリーによる独自レビュー「子どもたちを子どもたちのままに——子どもの性の商品化に関する独自レビュー」(*Letting Children be Children — Report of an Independent Review of the Commercialisation and Sexualisation of Childhood*) が発表された。
- 7月13日 ● 「児童保護に関するマンロー・レビュー」による政策提言を受け、政府は児童保護システムの改革に着手すると発表した。
- 10月21日 ● 子どもを不正な取引 (性的搾取、人身売買など) から守るガイダンス書が発行された。

3 キー・ステージ 2 (Key Stage 2) に関する動向

表 2 2012年現在のキー・ステージ区分表⁴

年齢 (歳)	学年	キー・ステージ	評価
3—4		早期基礎段階 EYFS Early Year Foundation Stage	
4—5	リセプション Reception	早期基礎段階 EYFS Early Year Foundation Stage	
5—6	1年 Year1	キー・ステージ 1 KS1	教師による英語、数学、理科の評価
6—7	2年 Year2		
7—8	3年 Year3	キー・ステージ 2 KS2	

8—9	4年 Year4	キー・ステージ2 KS2	
9—10	5年 Year5		
10—11	6年 Year6		全国テスト 教師による英語、数学、理科の評価
11—12	7年 Year7	キー・ステージ3 KS3	教師による日々たゆまぬ評価 (ongoing assessment)
12—13	8年 Year8		教師による日々たゆまぬ評価 (ongoing assessment)
13—14	9年 Year9		教師による英語、数学、理科および他の基礎科目の評価
14—15	10年 Year10	キー・ステージ4 KS4	一部の生徒たちは GCSE 試験を受験
15—16	11年 Year11		ほとんどの生徒たちは GCSE 試験を受験、あるいは他の国家資格を受験

■ 2010年

- 7月 6日 ● QCDA (Qualification and Curriculum Development Agency : 資格・カリキュラム開発当局 (2012年3月廃止)) はキー・ステージ2テストの結果を公表した。
- 7月19日 ● 学校担当副大臣ニック・ギブは OFQUAL (Office of Qualifications and Examinations Regulation) のキー・ステージ2テストに関するレポートを歓迎するとともに、政府のナショナル・カリキュラム・テストのレビューの関与を確認した。
- 8月10日 ● 2010年度の研究校における理科の到達度テストの暫定版の結果が公表された。
- 9月27日 ● 教育省はマイケル・ゴーフ大臣が NAHT (National Association of Head Teachers : 全国校長協会) 事務局長に当てたナショナル・カリキュラム・テストのレビューに関する計画の概要に従うという NAHT の決定を歓迎したと発表。
- 11月 5日 ● 教育大臣マイケル・ゴーフは、評価と説明責任の手続きに関するレビューを実施することを表明し、中立上院議員 (cross-bench peer) のビュー卿 (Lord Bew) を、そのレビューの座長に任命した。
- 12月 9日 ● 学校担当副大臣ニック・ギブはキー・ステージ2テストの結果についてコメントした。「本日の統計によって、我々の決意、すなわち若者たちのアカデミック水準を引き上げ、貧困層と富裕層の間にある到達度格差を埋めたい、という決意が明確に示された。」
- 12月14日 ● キー・ステージ2テストの結果が公表された。学校担当副大臣ギブは次のようにコメントした。「この統計は、多くの初等学校が、生徒たちに一級の教育を提供していることを示している。」

■ 2011年

- 2月 2日 ● 学校担当副大臣ニック・ギブはキー・ステージ2テストで顕著な成績を示したドーバー芸術連盟初等学校 (Dover Federation for the Arts primary school) へ表敬訪問した。
- 4月 5日 ● 教育省は、キー・ステージ2のテストと評価、説明責任に関する個別のレビュー

- の中間報告書（座長：ビュー卿）を刊行した。
- 6月23日 ● キー・ステージ2のテストと評価、説明に関するレビューの最終報告書が公表された。
 - 8月 2日 ● キー・ステージ2試験の結果が公表された。改善は見られるものの、次の問題が明らかになった。①3人の内1人の児童が3Rs（読み、書き、計算）が満足なレベルに達していない、②非常に低い学習レベルにいる生徒が相当数存在する、男子の10人に1人が7歳時レベルの読解力のままで小学校を卒業し、男子の14人に1人が7歳時レベルの作文力のままで小学校を卒業している。③読解力と作文力が満足なレベルに達している生徒の割合は減少している。
 - 12月15日 ● 16,000以上の小学校が受験したキー・ステージ2のテスト結果が刊行された。この結果の中で、15の小学校で、7歳時に成績優秀であったにもかかわらず11歳時には期待される結果を残せなかった生徒が20%以上も存在することが明らかになった。

政府の予想以上に、キー・ステージ2の試験結果が芳しくなかったこと、加えてこれまでの政権がいかにも現実を見ていなかったのか、ということがうかがえる。キー・ステージ2入学段階では成績優秀であったにもかかわらず、修了時にはそれを維持することが出来なかった生徒が多いということは、これまでの政府が表明してきた成功とは裏腹に、現実的には学校の教育力そのものが問われている大きな問題である。

4 オフステッド (OFSTED) に関する動向

■ 2010年

- 6月16日 ● OFSTEDの視察に対する議会の意見が学校担当副大臣ヒル卿 (Lord Hill) によって表明された。「9月から視察された学校のおよそ半数が、適か不適のいずれかでしか評価されていない。本当の改革が緊急に必要であることは明らかである。我々はより優れた学校を作り出す必要があるし、そのためには水準を高めていく必要がある。それこそまさに、我々が推進するアカデミー・プログラムである。また視察体制も改革する予定である。そうすれば OFSTED の専門知識は、より弱い学校を対象とすることができるだろう。」
- 11月23日 ● 本日発行された2010年度版のOFSTEDの年報によれば、不適と評価された学校が2倍に増えたものの、アカデミーは自らの水準を引き上げ、これまで以上に卓越校に選出された。
- 12月 9日 ● ティム・ロートン議員は、OFSTEDの年次評価プロセスを終了させるべく、できるだけすみやかに適切な立法措置の準備を示唆した。

■ 2011年

- 1月 7日 ● 学校担当副大臣ニック・ギブは、OFSTEDの2007年～2010年の科学教育の現状評価をもとに、改善が必要だとの認識を示した。
- 2月 8日 ● 本日、OFSTED長官に、新たにモーガン男爵夫人 (Baroness Morgan of Huyton) が任命された。

- 4月 6日 ● 勅任視学官クリスティン・ギルバート (Christine Gilbert) の辞任を正式に受け容れた。彼女は 2011 年 6 月 30 日をもって OFSTED を去ることになる。
- 8月24日 ● 教育大臣マイケル・ゴヴは OFSTED 理事会 (The Board of OFSTED) に以下 5 名を新たに任命した。リンダ・ファラント (Linda Farrant)、アンディ・パーマー (Andy Palmer)、ポール・スネル (Paul Snell CBE)、アラン・スティア (Sir Alan Steer)、ジェフリー・ウィッティ (Professor Geoff Whitty CBE)。
- 10月14日 ● 次期勅任視学官にふさわしい人物として、モスポーン・コミュニティ・アカデミー現校長のマイケル・ウィルショウ氏が選ばれた。ウィルショウ氏は教育界において長きに渡り傑出した業績を残している。教師歴 42 年、そのうち 25 年はロンドンの中等学校の校長を勤める。この貢献を認められ 2000 年には勲位を叙された。彼が校長を務めているモスポーン・コミュニティ・アカデミーはロンドンの最貧困地にあり、もとは失敗校であったが、彼のリーダーシップのもと、以下の点を達成した。①今年度 82%の生徒が英語・数学を含む GCSE5 教科で優秀な成績を修めた。② OFSTED の視察で 2 期連続卓越校と評価された。③今年、Oxbridge に 8 名の生徒が進学した。
- 10月20日 ● 本日より、保護者がいつでも子どもの通う学校について意見を言えるようにするオンラインアンケートページ「Parent View」を開設した。全英 22,000 校を網羅し、12 の質問項目に答えることで、その学校を選択しようとする親たちへの一助、あるいは OFSTED に視察の優先順位を知らせる役割を担う。
- 11月22日 ● OFSTED の 2010/2011 年度の年次報告書【希望を高め、失敗に取り組む】(Raising Ambition and Tackling Failure) が発行された。

5 特別支援教育 (Special Educational Needs) に関する動向

■ 2010年

- 7月 6日 ● 子ども担当副大臣サラ・ティザー (Sarah Teather) は、「すべての障がい児のために」(Every Disabled Child Matters) イベントで、現在の特別支援教育の改善に向けての次のステップについて触れた。それは今秋発行予定の緑書 (Green Paper) を通じて、親や教師、関連団体から広く意見を聞き、これまでの SEN に関する政策のレビューを行う、というものであった。
- 9月10日 ● 新しい SEN 緑書のために、子ども担当副大臣サラ・ティザーは、親や教師、関連団体に対して、公式に意見の聴取を要請した。親などが政策決定に関わることで、障がい児教育を彼らのコントロールのもとにおくよう改善することを目指す。
- 9月14日 ● 子ども担当副大臣サラ・ティザーは OFSTED の SEN に対する報告書に対して声明を発表した。また、彼女は改めて SEN システムの改善に親・保護者を巻き込んでともに作業をしていくことを強調した。
- 12月11日 ● 子ども担当副大臣サラ・ティザーは、障がいを持つ子どものいる家族や施設に対して、子どもたちの短期休暇のために今後 4 年間にわたり 8 億ポンドを拠出することを発表した。

■ 2011年

- 2月11日 ● 長年障がい児教育に携わってきたヘンリー・ウィンクラー (Henry Winkler) が叙勲した。
- 3月 9日 ● 政府は SEN システムの改革を提案した。子ども担当副大臣サラ・ティザーは従来のステートメント (Statement) を置き換え、ステートメントなしに子どもたちを支援できるようにする新しいシステムの提案を告知した。
- 6月23日 ● 新しい緑誓への意見聴取の期限があと 1 週間となった。
- 9月21日 ● SEN と障がい児教育における 20 のパス・ファインダー (Path Finder) を施行することを主要な提案とする新しい緑誓が発表された。
- 11月 4日 ● 有志立および地域の組織が SEN および障がいを持つ子どもたちを援助するのに重要な役割を担う。
- 11月17日 ● SEN の子どもたちは英語と数学において、非常な進歩を見せている。最新の報告書によると、SEN および障がい児教育 (Special Educational Needs and Disabilities : SEND) を受けている子どもたちは政府の試験的な基金の下、学業成績、ふるまい、出席のいずれにも顕著な進歩を示している。

6 GCSE 試験 (General Certificate for Secondary Education) に関する動向

■ 2010年

- 10月21日 ● GCSE と A レベルの暫定的な結果について、学校担当副大臣ニック・ギブが次のように、コメントした。「英語、数学を含む 5 科目で A* から C の成績を収めた生徒が 53.1% もいるということは喜ばしいことである。しかしながら、およそ半数の生徒——25 万人の生徒が GCSE の教育を受けないまま義務教育から去ってしまっているということに私達の懸念は残っている。……」
- 12月16日 ● 本日、生徒の属性 (ジェンダー、給食費免除者、民族など) の GCSE に関する統計を発表した。

■ 2011年

- 3月31日 ● 本日から、学校選択の一助としてイギリスの中等学校が各 GCSE 教科でどのような成績を修めているかという情報が検索可能となった。
- 7月 7日 ● 本日発表されたイングランドの 19 歳に関する統計は、英国バカロレア (English Baccalaureate) の重要性を示している。統計によると、①全 19 歳人口の 80% が全日制の教育機関に所属し、その 81% が高等教育段階にいる。② 19 歳人口の 3% が NEET である。③英語、数学を含む GCSE の 5 教科で A* から C あるいはそれと同等の成績を修めたもののうち、67% が全日制の教育機関に所属し、そのうち 67% が高等教育段階にいる。④そのうち 5% が 19 歳の段階で NEET である。⑤英語、数学を含まない GCSE の 5 教科で A* から C あるいはそれと同等の成績を修めたもののうち、61% が全日制の教育機関に所属し、そのうち 60% が高等教育段階にいる。⑥そのうち 6% が 19 歳の段階で NEET である。この事実を受け止め、学校担当副大臣ニック・ギブは次のようにコメントした。「これらの統計は英国バカロレアで学ぶアカデミックのコア科目群の重要性を強調する。これらの科目でいい成績を修めた若者は高等教育へ進学し、NEET

にはなりにくい傾向がある。英国バカロレアの実施に関する情報を公開することはすべての若者たち、特に不利な地域に居住する者たちに、これらの活力のある科目を学習するチャンスを増加することになるだろう。」

- 7月28日 ● 学校担当副大臣ニック・ギブは英国バカロレアに関する教育選抜委員会 (Education Select Committee) の報告書に対して次のようにコメントした。「すべての子どもたちは英語や数学、科学、言語、人文科学を含む広くバランスのとれた教育を受ける権利を持つと私たちは強く信じている。これらのアカデミック科目は、若者がこれからの学びに必要な、あるいは雇用を得られるような知識とスキルを反映している。貧困地区出身の子どもが有利な地区出身の子どもよりもこれらの科目の GCSE 試験を受験する機会が少ししか与えられないということはあり得ない。」
- 8月25日 ● 学校担当副大臣ニック・ギブは本日、過去 5 年間で最高の結果を出した GCSE を受験した生徒たちを賞賛した。
- 12月24日 ● OFQUAL は 2012 年 9 月から GCSE の改訂に着手することを確認した。昨年発表された白書に基づき、各コースの最後に試験をおこなうという方法に戻し、受け直し (re-sit) の文化をやめる。この改訂は同時に GCSE 主要教科において、生徒たちは正しいスペル、句読法、文法が採点される、ということの意味している。

■ 2012年

- 1月26日 ● 本日、3,300 件を超える GCSE と A レベル試験の各中等学校の個別データが発表された。教育省は今年、中等学校に関して、2010 年と比較して 400% 以上もの情報を公開している。このデータには①恵まれない (disadvantaged) 子どもたちが各学校でどのようにうまくやっているか、②前回好成績、中程度の成績、低い成績を修めた生徒たちが伸びているか、③英国バカロレアを構成するコア・アカデミック科目をどれだけの生徒が受講しているか、といった情報が含まれている。このデータによる結果は以下の通りである。①維持学校において、英語、数学を含む 5 教科で A* から C を取得した生徒は、全国平均が 58.2% に対して、恵まれない子どもたちはわずか 33.9% にすぎなかった。② 10 人以上恵まれない子どもたちがいる 339 校において、彼らの英語、数学を含む 5 教科で A* から C を取得した率は 20% を下回った。③それとは対照的に 10 人以上恵まれない子どもたちがいる 21 校では、その達成率が 80% を超えている。
- 1月31日 ● パフォーマンス・テーブルで考慮される資格について、これまで 3,175 もの資格が対象となっていたが、これを 125 に絞ることが告知された。これは昨年発表されたアリソン・ウルフ (Alison Wolf) 教授の提言によるものである。
- 2月 9日 ● 本日、新しい調査報告が発表された。それによると、何千もの生徒がコア・アカデミック科目を受講する機会を失っていることがわかった。その調査によると、以下の GCSE 科目を 1 人も受講していない学校がかなりの数あるという。地理 137 校、歴史 57 校、現代外国語 30 校、フランス語 219 校、スペイン語 1,067 校、理科 (物理、生物、化学など) 516 校。

7 養子縁組 (Adoption) に関する動向

■ 2010年

- 11月 2日 ● 子ども担当副大臣ティム・ロートンは地方当局及び有志立養子縁組機関 (Voluntary Adoption Agencies) に、養育者と子どもが同じ人種や文化的背景を共有していないという理由で養育者と愛情のある家庭を否定しないよう、養子縁組の承認プロセスの簡素化および養子縁組に関する新たな諮問団体の設立を呼びかけた。
- 11月18日 ● 子ども担当副大臣ティム・ロートンは養子縁組に関する最新の統計に基づく政策を行うよう地方当局に具申した。

■ 2011年

- 2月22日 ● 教育大臣マイケル・ゴヴと子ども担当副大臣ティム・ロートンは、議会が人種や社会的背景によって可能性のある養育者を排除してしまわないよう、本日、新たな養子縁組のガイダンスを開始した。政府はまた、養子縁組のサービスへのOFSTEDの視察権限を強める計画である。
- 7月15日 ● 政府は養子縁組に関する内閣顧問としてマーティン・ネアリィ (Martin Narey) を指名した。彼は2011年7月12日からその職責を担うことになった。
- 10月31日 ● 平均して2年7ヶ月かかる養子縁組の手続きをできるだけ早めることを企図し、今回初めて政府は各地方当局が保護児童 (Child in Care) をどれだけ早く養子縁組を実現しているかというランキングを作成した。
- 11月13日 ● 子ども担当副大臣ティム・ロートンは、今週『デイリー・ミラー』紙に掲載された人種を超えた養子縁組に関する2つの記事に答えるために書状を送った。
- 12月22日 ● 政府は本日、将来的な養育者を評価するプロセスを全面的に改定することを発表した。子ども担当副大臣ティム・ロートンは、専門家グループに、養育者の募集、訓練、評価の新たなプロセスを検討することを依頼した。

8 ソーシャル・ワーカー (Social Workers) に関する動向

■ 2010年

- 6月28日 ● シンクタンク DEMOS の保護児童 (Child in Care) に関する報告書に対して、子ども担当副大臣ティム・ロートンは以下のように発言した。「保護児童に関する経験と機会は改善する必要がある。ある子どもたちにとっては、保護は最良の選択肢だが、彼らが人生のチャンスや教育に苦しまないようにするためにシステムがもっとうまく活用されるべきである。それぞれの地方当局がより効果的に協同し、保護児童に安定性を供給してほしい。また現場では、ソーシャル・ワーカーに対する規制を緩和し、子どもたちや家族にもっと近づいて早急な対応、効果的な対応ができるようにしたい。」
- 7月 1日 ● アイリーン・マンロー教授は子どものための社会活動のレビューに関して、よい実践の証拠や事例の聞き取り調査をすることを告知した。(再掲)

- 9月30日 ● 本日、2010年3月末現在、各地方当局が保護している児童の数と、2009年から2010年にかけて養育者に推薦された人数、その評価、およびソーシャル・サービスの児童保護に頼っている子どもの数が発表された。
- 10月 1日 ● アイリーン・マンロー教授は英国の児童保護システムのレビュー一次報告書において、プロセスと手順および以前の改革の意図しない結果が、ソーシャル・ワーカーが弱い立場の子どもたちや家族と過ごす時間の妨げになっていることを指摘した。(再掲)
- 10月 7日 ● 学校担当副大臣ニック・ギブは、先週5日間、ストックポート (Stockport) のソーシャル・ワーカーに随伴し、彼らが普段どのような活動をしているのかを体験した。
- 12月14日 ● ソーシャル・ワーカーはもっと専門的な地位に置かれるべきであるとして、ソーシャル・ワーク改革委員会 (Social Work Reform Board) はソーシャル・ワーカーをサポートする基準を発表した。
- 12月23日 ● アイリーン・マンロー教授は児童保護システムで働く専門家たちに、現行のシステムを改革するためには何が必要でどのような方法が一番なのかを尋ねた。

■ 2011年

- 5月10日 ● アイリーン・マンロー教授の児童保護システムのレビュー『児童保護に関するマンロー・レビュー——最終報告書:子ども中心のシステムに』が公表された。(再掲)

9 フリー・スクール (Free Schools) に関する動向

■ 2011年

- 8月28日 ● 今年9月に、全英で24校のフリー・スクールが開校することが政府によって発表された。
- 9月 5日 ● 最新の分析によると、新しいフリー・スクールは保護者の学校選択のかなり重要な選択肢になっている。フリー・スクールの約半数は、そこに子どもを通わせる家庭の30%が貧しい地域で占められている。
- 9月 7日 ● 9月に24校のフリー・スクールが開講されることが正式に発表になった。
- 10月10日 ● 新たに79校のフリー・スクールが2012年に開校することが認められた。
- 10月19日 ● 新設学校ネットワーク (New School Network) がフリー・スクールに補助金を拠出することを決めた。
- 11月14日 ● 2012年9月から新たに8校 (3校の特別学校 (the special schools) と5校のオルタナティブ・スクール) がフリー・スクールとして開校することが認められた。これで合計87校が2012年9月に開校することになる。
- 12月21日 ● 2011年9月に開講したフリー・スクールのうち、建物工事の費用が確定し、契約書にサインした7校の資金についての詳細が発表された。

■ 2012年

- 1月18日 ● 教育大臣マイケル・ゴヴは、バークレイ社 (Barclays) の全英の学校に対する専門技術と支援の提供を歓迎した。特にバークレイ社はアカデミー、フリー・スクール、ユニバーシティ・テクニカル・カレッジ (UTCs) とスタジオ・スクール (Studio Schools) に注力する。
- 2月13日 ● 2013年9月に開校を予定しているフリー・スクールは、本日、教育省に詳細な計画を提出した。

10 教育財政 (Education Funding) に関する動向

■ 2010年

- 5月24日 ● イギリス政府は現在 1,560 億ポンドもの赤字財政に苦しんでいるが、初等・中等学校、シュア・スタート、16-19歳の教育 (16-19 education) に対して、政府は本日、2010年度から11年度は、教育支出を削減しないと発表した。
- 6月25日 ● 国務大臣は、貧しい子どもたちが無償で給食費を支給するための費用は、いかなる状況においても、新たなフリー・スクール・プログラムに資金を供給するために使用されないことを議会で確認した。
- 11月13日 ● 教育大臣マイケル・ゴヴは、最も貧しい生徒たちを援助するために学校と地方当局を競争させるように設計された、1億1千万ポンドもの教育寄付基金 (education endowment fund: EEF) を発表した。
- 12月13日 ● 教育大臣マイケル・ゴヴは、ピューピル・プレミアム (Pupil Premium: 6年間の給食費無償制度) に関して、学校財政決算に関する閣僚声明を出した。
- 12月20日 ● 若者たちの学びの機関 YPLA (Young People's Learning Agency) は 16歳から 19歳までの若者たちに対する教育と訓練のための資金調達について詳細を発表した。

■ 2011年

- 2月 7日 ● 教育大臣マイケル・ゴヴは「すべての若者は音楽がもたらす機会——親がレッスンのためにお金を払う余裕がある裕福な家庭環境からだけではなく——から利益を得る機会が必要である」として、音楽教育に 8億2千5百万ポンドを拠出することを約束した。

11 キー・ステージ・テスト (Key Stage Tests) に関する動向

■ 2010年

- 7月19日 ● 学校担当副大臣ニック・ギブは、KS2 テストに関する OFQUAL の報告書を歓迎し、ナショナル・カリキュラムのテストをレビューする政府の役割を確認した。
- 8月 3日 ● キー・ステージ 2 テストの暫定結果が公開された。学校担当副大臣ニック・ギブは生徒たちの成果を歓迎した。
 - キー・ステージ 2 テストの暫定結果では、英語と数学の両方で 74 パーセントの生徒がレベル 4 あるいはそれ以上を達成したことを示している。

- 8月10日 ● いくつかの学校をサンプルにしたキー・ステージ2テスト（暫定版）の理科（science）到達度テストの結果を公開した。
- 9月 7日 ● 学校担当副大臣ニック・ギブは、単一レベル・テストの3年間にわたる試行期間の終了を発表し、関係者に感謝した。
- 12月 9日 ● 本日、キー・ステージ2テストの統計結果が公表され、学校担当副大臣ギブがコメントした。「本日発表になった統計に示されているように、我々は、すべての若い人たちのための教育水準を上げると同時に、裕福な家庭環境と貧困なそれとの間の達成度の格差を解消したい。」

■ 2011年

- 4月 5日 ● 本日、教育省は、キー・ステージ2テストおよび評価について独立したレビューの進捗状況報告書を発行した。
- 7月18日 ● 教育大臣マイケル・ゴヴは、キー・ステージ2テストをより公平に、より効果的なテスト・システムにするために、ビュー卿が行った初等学校修了時のテスト、評価、説明責任に関する独自のレビューのすべての勧告を受け入れると発表した。

12 早期幼児教育（Early Years Education）に関する動向

■ 2010年

- 5月28日 ● 子ども担当副大臣サラ・ティザーは、シュア・スタート子どもセンターの一つ、シャドウェル・キッズ・センター（Shadwell Children's Centre）を訪問した。本日、その訪問およびセンターの称賛の辞を述べた。
- 11月16日 ● 政府は、子どもセンターを無料化する方向である。子ども担当副大臣サラ・ティザーのコメント「すべての家族のためのアーリー・イヤーズ・サポートは重要だが、私たちの改革は、まず第一に、最も恵まれない家族に恩恵を授ける必要がある。」

■ 2011年

- 2月17日 ● 地方当局、初期ケア・トラスト（Primary Care Trusts）、ジョブ・センター・プラス（Job Center Plus）に対する政府のシュア・スタート子どもセンターに対するアプローチおよびそれに伴う法的なガイダンスへのアクセスの詳細が発表になった。
- 4月 1日 ● クレア・ティックル夫人（Dame Clare Tickell）は、タイムズ・エデュケーション・サプリメント（Times Educational Supplement : TES）が書いた、早期幼児教育のフォニックス教育（phonics）に関する彼女の独自のレビューについて誤解を招くような記事に回答した。
- 7月 6日 ● 政府は、早期学習と子どもセンターの改革に着手した。改革は、0から5歳児のためのカリキュラムのスリム化、学校教育の準備により焦点化、保護者のためより柔軟な保育資格の自由化などを含む。
- 9月19日 ● 本日発表された政府の計画によると、障がいを持つ何千人もの2歳児は、無料の早期教育の恩恵を必要以上に受ける立場にある。

- 政府は本日、5歳未満児をもつ母親と父親の子育てクラスのバウチャーを提供する試みを発表した。
- 11月11日 ● 無料の早期教育に関する意見聴取が始まった。無料の早期教育は、14万人の障がいを持つ2歳児に広げられ、両親は本日から、政府が発表した計画の下で、より柔軟に自由にアクセスできるようになる。

13 学校建築 (School Buildings) に関する動向

■ 2010年

- 7月 5日 ● 教育大臣マイケル・ゴヴは、政府の迅速な判断こそ、投資の最大の効果を引き出すとして、イギリスの学校建築に対する設備投資の完全なオーバーホールを指示した。
- 8月 6日 ● 本日、教育大臣マイケル・ゴヴは、新規学校建築プロジェクトにゴーサインを出した。このプロジェクトには33校の学校と44校のアカデミーがサンプルとして参加している。
- 8月 9日 ● サンプルである33校の学校と44校のアカデミーは建築プロジェクトのゴーサインを受け取った。
- 9月21日 ● ドンカスター (Doncaster) のキャンプスマウント・テクノロジー・カレッジ (Camps Mount Technology College) の再建プロジェクトについて、教育省は声明をだした。
- 11月30日 ● 教育大臣マイケル・ゴヴは、学校のためのパートナーシップ (Partnerships for Schools) の会長であるマイケル・グラビナー (Michael Grabiner) の任期をさらに12ヶ月間延長した。

■ 2011年

- 2月11日 ● 判事ホルマンは、本日、国務大臣が「将来の学校設置プログラム (the Building Schools for the Future : BSF)」を終了させる決断をしたことについて、6つの地方当局から提出されたBSFに関する法的レビューを調査した結果、その決断は合理的であり、原告は資金調達の合法的な期待など持ち得ないことを判断した。この判断に対して政府が応答した。
- 3月 2日 ● BSF問題に関連した6つの地方当局から、意見聴取を行う協議期間を設定することが教育大臣マイケル・ゴヴの声明によって確認された。

14 チャイルドケア (Childcare) に関する動向

■ 2010年

- 5月28日 ● 子ども担当副大臣サラ・ティザーは、シュア・スタート子どもセンターの一つ、シャドウエル・キッズ・センターを訪問した。本日、その訪問およびセンターの称賛の辞を述べた。(再掲)
- 7月 6日 ● 子ども担当副大臣サラ・ティザーは、早期幼児教育基礎段階 (Early Years Foun-

ation Stage : EYFS) において官僚制を減少させ、年若い子どもたちの学習や能力開発により大きく焦点を当てることを確保するために EYFS のレビューを要求した。

- 7月22日 ● 政府は、チルドレンズ・トラストを取り巻く官僚制を取り除くよう改革することを表明した。(再掲)
- 8月 2日 ● クレア・ティッケル夫人は、早期幼児教育基礎段階の独自のレビューのために証拠となる事物を広く一般から募集する。これにはオンライン聴取へのリンクが含まれる。
- 11月16日 ● 政府は、子どもセンターを無料化する方向である。子ども担当副大臣サラ・ティザーのコメント「すべての家族のためのアーリー・イヤーズ・サポートは重要だが、私たちの改革は、まず第一に、最も恵まれない家族に恩恵を授ける必要がある。」(再掲)

■ 2011年

- 3月30日 ● クレア・ティッケル夫人は、早期幼児教育基礎段階は、子どもたちの理解が進まず、重荷になっており、学校で学ぶ準備ができた子どもたちが確信できるよう、徹底的なスリム化が必要だとした。
- 4月 1日 ● クレア・ティッケル夫人は、タイムズ・エデュケーショナル・サプPLEMENT (Times Educational Supplement : TES) が書いた、早期幼児教育のフォニックス教育 (phonics) に関する彼女の独自のレビューについて誤解を招くような記事に回答した。(再掲)

15 保護児童 (Children in Care) に関する動向

■ 2010年

- 6月28日 ● シンクタンク DEMOS の保護児童 (Child in Care) に関する報告書に対して、子ども担当副大臣ティム・ロートンは以下のように発言した。「保護児童に関する経験と機会を改善する必要がある。ある子どもたちにとっては、保護は最良の選択肢だが、彼らが人生のチャンスや教育に苦しまないようにするためにシステムがもっとうまく活用されるべきである。それぞれの地方当局がより効果的に協同し、保護児童に安定性を供給してほしい。また現場では、ソーシャル・ワーカーに対する規制を緩和し、子どもたちや家族にもっと近づいて早急な対応、効果的な対応ができるようにしたい。」(再掲)
- 9月 7日 ● 本日、教育省は養護施設 (children's homes) を改善する新たな作業計画に取りかかった。教育省は今秋にもキーとなるパートナーと会合を持ち、この計画を遂行するにあたり優先順位などの合意を得ていくつもりである。
- 9月30日 ● 本日、2010年3月末現在各地方当局が保護している児童の数と、2009年から2010年にかけて養育者に推薦された人数、その評価、およびソーシャル・サービスの児童保護に頼っている子どもの数が発表された。(再掲)
- 12月 9日 ● 子ども担当副大臣ティム・ロートンは OFSTED、ADCS (The Association of Directors of Children's Services Ltd)、LGA (the Local Government Association)、SOLACE (Society of Local Authority Chief Executives) への書状において、できるだけ早く適切な立法の機会を明確にできるよう、年次評

価プロセスを終了する決定の概要を示した。

■ 2011年

- 3月18日 ● 本日、新しいチャーターが発行された。このチャーターにおいて、子ども担当副大臣ティム・ロートンは、ケア・システムの子どもたちに彼らの仲間と同じ機会を与えるために、里親制度をめぐる神話を払拭することを目指す。
- 8月30日 ● 子ども担当副大臣ティム・ロートンは本日、新たに年間600万ポンドを里親と脆弱な家庭のための追加サポートを支援するために追加することを発表した。
- 9月28日 ● 本日、2011年度の保護児童に関する統計が発表された。2011年3月末における保護児童は1987年以来最高の65,520人、2010年から2%増加した。

■ 2012年

- 2月28日 ● 本日、教育省は、英国で最も脆弱な若者の一部に直接お金を与えたいと考える寄贈者は、保護児童のための新たな普通預金口座を介してできるようになったと発表した。

16 キャピタル・ファンド (Capital Funding) に関する動向

■ 2010年

- 10月20日 ● 国務大臣は、地方自治体への手紙の中で、補助金の地方当局の割り当ての見直しを本日確認した。
- 12月 7日 ● 子ども担当副大臣ティム・ロートンは、マイ・プレイス・プログラム (myplace programme) を通じて57ものプロジェクトが継続できるよう2011年度から2013年度にかけて1億3400万ポンドもの資金調達したことを発表した。

■ 2011年

- 1月19日 ● 本日、学校担当副大臣ヒル卿は、9千万ポンドもの資金パッケージを発表、このことによりイングランドのシックス・フォーム・カレッジは十分すぎるほどの資金提供を受けることになった。ヒル卿のコメント「この政府は、すべての若者は16歳以降も教育訓練を継続する機会を持っていることを積極的に確約する。」
- 4月 8日 ● 教育省は、セバスチャン・ジェームス (Sebastian James) による独自の学校基金レビューを発行した。
- 6月 7日 ● 教育大臣マイケル・ゴーフは、本日、「学校のためのパートナーシップ」 (Partnerships for Schools) の閉鎖および教育基金積立機関 (Education Funding Agency) の新しい最高責任者 (Chief Executive) の任命を決定した。EFAの最高責任者には、ピーター・ローエナー (Peter Lauener: 現 YPLA 最高責任者) が選ばれた。
- 12月13日 ● 教育大臣は、2012年度から13年度の教育予算を発表した。

17 ナショナル・カリキュラム (National Curriculum) に関する動向

■ 2010年

- 9月 7日 ● 学校担当副大臣ニック・ギブは、単一レベル・テストの3年間に渡る試行期間の終了を発表し、関係者に感謝した。(再掲)
- 教育省は、マイケル・ゴーフ大臣からの手紙に対する NAHT (National Association of Head Teachers : 全国校長協会) の事務局長が下した決定——ナショナル・カリキュラム・テストの見直し計画の概要に関する決定を歓迎した。
- 11月18日 ● 本日、ティム・オーツ (Tim Oates) らのグループによる国際的なカリキュラム比較分析に関する調査報告書『もっとよく出来る：国際比較を利用したイングランドのナショナル・カリキュラムの再定義』(Could do better : Using international comparisons to refine the National Curriculum in England) が発行された。教育大臣マイケル・ゴーフのコメント「この国際的なカリキュラムと授業の分析は我々の独自のナショナル・カリキュラムを改革する際のお手本となるだろう。」

■ 2011年

- 1月20日 ● 本日、教育大臣マイケル・ゴーフはナショナル・カリキュラムの本格的なレビューを発表した。ゴーフ大臣「我々のレビューは、世界で最高の学校のシステムを調べて、私達に世界トップクラスのカリキュラムを提供するだろう。」
- 教育大臣マイケル・ゴーフは、国際的なリーグ・テーブルでの凋落を逆転するための新しい世界クラスのカリキュラムの作成に着手したことを宣言した。
- 4月11日 ● ナショナル・カリキュラムに関するパブリック・コメントのメ切りが4日後に迫っている。2011年1月から現在まで4000以上もの反応があった。
- 12月19日 ● 教育大臣マイケル・ゴーフは、エキスパート・レビュー・パネルの最新の調査結果に関する閣僚声明を出した。

18 資格 (Qualifications) に関する動向

■ 2010年

- 5月27日 ● 教育大臣マイケル・ゴーフは、本日、資格およびカリキュラム開発局 (QCDA) を閉鎖する法律の導入を確認した。
- 6月 7日 ● 政府は、公立学校における主要科目の iGCSEs (International General Certificates of Secondary Education) の提供に関する制限を撤廃し、できるだけ早くリーグ・テーブルに iGCSEs の結果を反映すること、さらにフェーズ4 ディプロマとローズ・レビューを廃止することを発表した。
- 6月24日 ● 政府は本日、カレッジや学校がより自由に動けるよう教育システムから官僚制を排除する方向性を指示した。学校長やリーダーたちは、学校担当副大臣ニック・ギブの以下の発言を歓迎した。
- ・学校がいくつのあるいはどのディプロマにするか選択できるようにする。

- 拡張ディプロマ (Extended Diploma) の開発は停止する。
- OFSTED の定期的な視察において卓越 (Outstanding) と評価されたシックス・フォーム・カレッジの視察は終わる——約 40%のカレッジが免除となる。
- シックス・フォーム・カレッジはこれ以上「学習者視点からの調査 (surveys of learner views) を強制されることはない。
- 教育機関に多大な確証を与える 16—19 歳教育に対する教育予算の年度補正を計画している。

7月 2日 ● 教育大臣マイケル・ゴヴは OFQUAL の議長兼最高経営責任者キャスリーン・タッタソール (Kathleen Tattersall) の辞任を受け入れた。

7月22日 ● ジョン・ヘイズ (John Hayes) が徒弟制度 (apprenticeships) とキャリア・アドバイスに責任を持つ新しい副大臣として、任命された。彼は DfE および BIS (Department for Business, Innovation and Skills) の兼任となる。

■ 2011年

7月20日 ● 教育省は本日、最も質の高い資格だけを算定項目に加えた新しい、より透明性の高いリーグ・テーブルを発表した。

19 スクール・パフォーマンス (School Performance) に関する動向

■ 2010年

11月23日 ● OFSTED の年次報告書によると、学校 (Schools) 部門の不適と評価される数が倍増する一方で、優秀と評価されるアカデミーの数は増加している。

■ 2011年

1月12日 ● 親たちに学校のパフォーマンスと財政支出に関するより多くの情報を提供しようとする政府の動きの一環として、2010年度における中等学校のパフォーマンスと財政支出に関するデータが公表された。(再掲)

1月14日 ● 教育大臣マイケル・ゴヴは、前アカデミー校長であったエリザベス・シドウェル女史を学校審議官に任命した。(再掲)

1月26日 ● 本日、正式に各中等学校の GCSE と A レベル試験の結果が発表された。

20 学校改善 (School Improvement) に関する動向

■ 2010年

11月 4日 ● 本日、教育大臣マイケル・ゴヴは地方当局に、アカデミー・プログラムでの自らの役割——パフォーマンスの芳しくない学校を識別する役割——のアウトラインを示すために指示書を出した。

11月23日 ● OFSTED の年次報告書によると、学校 (Schools) 部門の不適と評価される数が倍増する一方で、優秀と評価されるアカデミーの数は増加している。(再掲)

■ 2011年

- 1月27日 ● 本日提出された教育法案は、OFSTED と OFQUAL に焦点をあて、パフォーマンスが芳しくない学校との戦いや学校でのひどい振る舞いをよりよく管理でき、教育水準を高めることを目的としている。
- 3月 1日 ● 教育大臣マイケル・ゴヴは、本日、地方当局に、それぞれの地域内で基準以下の学校を改善するための計画の提出を求める指示書を出した。

■ 2012年

- 1月26日 ● 本日、正式に各中等学校の GCSE と A レベル試験の結果が発表された。(再掲)

-
- 1 本稿で取り上げる Press Release および News はすべて Department for Education による (<http://www.education.gov.uk/>)。
 - 2 <http://www.education.gov.uk/inthenews/inthenews> をもとに筆者が 2012 年 12 月末の時点で作成。
 - 3 <http://www.guardian.co.uk/education/2012/feb/25/academny-schools-fewer-gcses-study> — この記事は、Local School Network のアンチ・アカデミー・キャンペーン・グループの教育評論家ヘンリー・スチュワート (Henry Stewart) による統計分析を論拠としている。(最終アクセス日: 2012 年 3 月 21 日)。
 - 4 http://www.direct.gov.uk/en/Parents/Schoolslearninganddevelopment/ExamsTestsAndTheCurriculum/DG_4016665 (最終アクセス日: 2012 年 3 月 27 日)